

令和6・7年度 鹿児島県社会教育委員の会議 審議のまとめ

地域を支える次世代の人づくり
～^{ふるさと}郷土のよさを生かした かごしまの創り手の育成～

令和8年2月

鹿児島県社会教育委員の会議

目 次

1	はじめに	1
2	審議のテーマ	1
3	テーマ設定の理由	1
	(1) 国の「新たな教育振興基本計画」から	1
	(2) 鹿児島県教育振興基本計画から	1
4	審議の視点	2
5	「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況について	3
	(1) アンケート調査の目的	3
	(2) 回答者基本情報について	3
	(3) 「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況についての アンケート調査結果	3
6	地域を支える次世代の人づくりのための方策（提言）	8
	提言1 異年齢集団・多文化共生で育む体験・学びあい活動の推進	8
	提言2 学校・家庭・地域・各種団体・NPO・企業等の連携・協働の促進	8
	提言3 郷土 <small>ふるさと</small> のよさを生かした未来をつくる地域教育力の継承・発展	9
7	これまでの審議の経過	10
8	おわりに	10
◇	参考事例：市町村関係課・社会教育団体・教育機関・NPO法人等の取組	
	I さつま町教育委員会社会教育課	12
	II ことの葉日和	14
	III 鹿児島県立短期大学	16
	IV 一般社団法人 folklore forest	18
	V NPO法人薩摩リーダーシップフォーラム SELF	20
◇	資料編	
	○ 「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況アンケート調査	22
◇	鹿児島県社会教育委員名簿	40

1 はじめに

今期（令和6・7年度）の鹿児島県社会教育委員の会議において、県教育委員会から審議のテーマとして、「地域を支える次世代の人づくり～郷土のよさを生かした かのしまの創り手の育成～」が示された。

県教育委員会からのテーマ設定の理由については後述するが、現在、人口減少や少子化の深刻化をはじめ、地域コミュニティのつながりの希薄化、デジタル化に伴う学習環境の変化や学習ニーズの多様化、社会教育を担う人材の不足、グローバル化の進展等、将来の予測が困難な社会状況に直面している。その中で、社会教育に求められる役割は年々変化し、より複雑化してきている。

これからの時代においては、多様な人々が支えあう共生社会の実現や地域社会で子どもを温かく育む仕組みづくりなど、社会全体で支えあう教育の力がこれまで以上に重要となる。そのため、社会教育を通じた体験活動、学びあい活動によって、世代や立場を超えて人々が出会い、つながり、互いに支えあう関係の構築が強く求められている。

そこで、当会議は2年間の審議を深めるために、まずテーマの設定理由を踏まえた審議の視点を整理した上で、地域を支える次世代の人づくりに関する現状を把握する項目等の検討を行い、アンケート調査を実施した。さらに、地域を支える次世代の人づくりに関する具体的な実践等についての情報を得るために、関係機関への聴き取りによる追跡調査を行った。本提言は、これらの調査結果を基に、当会議において審議を重ねてきたものである。

2 審議のテーマ

地域を支える次世代の人づくり
～ 郷土のよさを生かした かのしまの創り手の育成 ～

3 テーマ設定の理由

県教育委員会から、テーマ設定の理由として、次の2点が説明された。

(1) 国の「新たな教育振興基本計画」（令和5年6月16日閣議決定）から

教育基本法を普遍的な使命としつつ、新たな時代の要請を取り入れていく「不易流行」の考え方を基調とし、総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を掲げ、令和22年（2040年）以降の社会を見据えた教育政策の在り方が示された。

(2) 鹿児島県教育振興基本計画から

県教育委員会では、国の「新たな教育振興基本計画」を参酌し、令和6年2月に「第4期鹿児島県教育振興基本計画」を策定し、基本目標を「夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり～誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」としている。

基本目標の実現のために、今後5年間に取り組む施策の方向性の一つとして「IV 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進 ① 地域を支える次世代の人づくり」を掲げ、具体的な施策の方向性を「地域社会に蓄積された様々な知恵を生かし、青少

年の健全育成のため、学校、家庭、地域が一体となった活動を推進し、地域を支える人材の育成」、「本県の偉人の足跡や教育的風土、伝統を生かした、幅広い視野と高い見識を養う取組等を通して、様々な分野で地域社会をリードする人材の育成」等とし、取り組むこととしている。

上記のことを踏まえ、各地域社会において、それぞれの地域性や強みを生かしながら、各地域の持続可能な発展につながり、一人ひとりを尊重する優しさを大切にした人材育成を目指し、「地域を支える次世代の人づくり」について、提言をまとめたい。

4 審議の視点

審議のテーマを協議するに当たり、審議の視点を設定し、更にその視点をより深めるため、グループワーク等を行い、審議を重ねた。

その協議内容が、以下の通りである。

(1) 審議の視点1 ^{ふるさと} 郷土かごしま（地域）のよさを生かした人づくりとは

ア 県社会教育委員の意見（グループワーク実施）

- よさが誰から見たよさなのか。子どもの視点が大事ではないか。
- 郷土のよさを生かした子どもと大人の人づくり。
- 子どもに焦点が当たりすぎていないか。（青年，壮年，高齢者）
- 郷土のよさ。過去のことだけではなく未来を意識した視点も必要。
- 数値的な根拠，具体的に則った形での議論が必要。
- 大人側の学びについても視点を当てた方が良い。
- それぞれが，分業し合える組織づくりが必要。
- 職場の地域貢献にも焦点を当てる。

イ 審議の視点1のポイント

- それぞれの地域のよさを生かした取組
- 共に育つ
- 大人と子どもの育ちあい

(2) 審議の視点2 学校・地域・家庭等が一体となった人づくりとは

ア 県社会教育委員の意見（グループワーク実施）

- それぞれをつなげる体制づくりが必要ではないか。
- 企業やNPOにも視点を当てていく必要。
- 学校が最初にくるのではなく，地域が最初にくてもよいのではないか。
- 大人側が学んでいくという視点が必要。
- 関わる人を増やす，巻き込むことが必要。
- 地域の中で，いろいろな人を取り残さない。福祉的な視点も必要。

イ 審議の視点2のポイント

- 共に育つ地域づくりが大事
- 「一体となった」の捉え方
- SDGs（誰一人取り残さない）
- つながりが大事

- 社会教育の重要性
- 運営組織の体制づくり，必要な人が，必要な時に，必要な場面で
- 自分事として捉える
- 啓発活動の必要性
- 社会教育が浸透できるような取組

〈審議の視点のまとめ〉

- 「共に育つ，大人と子どもの育ちあい」
- 「つながりを大事にした，共に育つ地域づくり」
- 「^{ふるさと}郷土のよさを生かした地域共創社会を目指す仕組みづくり」

5 「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況について

県内全域の県市町村関係課・社会教育団体・教育機関・民間事業者・NPO等（124団体等）を対象に「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況アンケート調査を実施した。（調査期間：令和7年3月8日～4月10日）

その結果が，以下の通りである。

(1) アンケート調査の目的

本県及び各市町村，その他の団体等が実施している「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況について把握するとともに，特色ある事例を収集し，今後の事業や活動の推進方策について考察し，提言に生かすこととする。

(2) 回答者基本情報について→42団体等回答

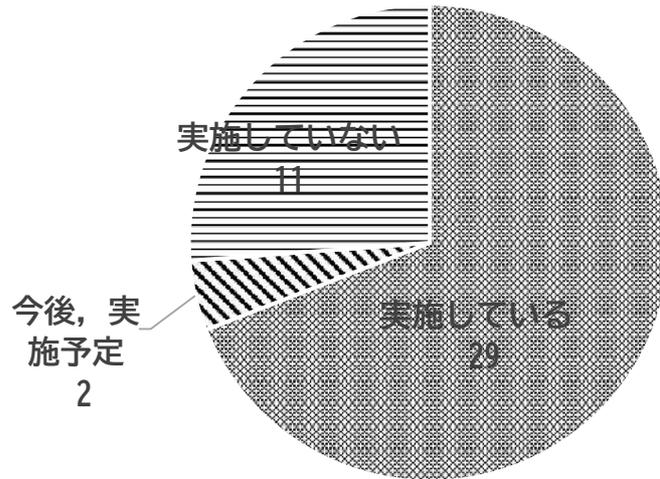
(3) 「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況についてのアンケート調査結果

Q1 「地域を支える次世代の人づくり」に関する実施状況について（令和6年度）
貴所属における実施状況を回答してください。

ア 実施している→29団体等回答

イ 今は実施していないが，来年度以降実施を予定している→2団体等回答

ウ 実施しておらず，来年度以降も実施する予定はない→11団体等回答



Q3 事業・活動のねらいについて簡潔に回答してください。（一部掲載）

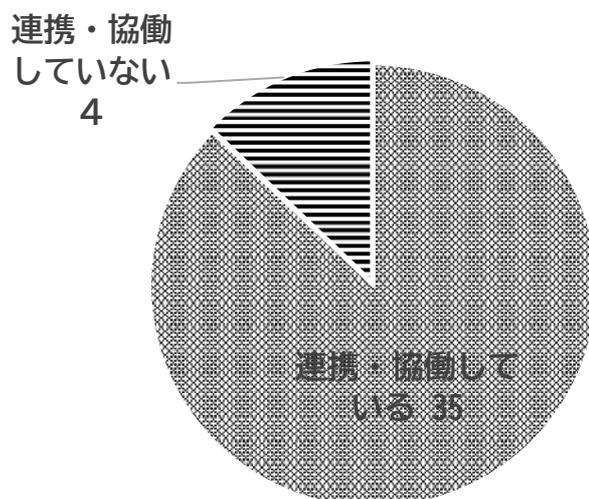
- ・ 青少年が親元を離れ，異年齢集団での生活体験を通し，基本的な生活習慣や自立心を身に付け，社会性・自主性を磨き，人と人ともつながりを大切にする心を養うとともに，郷土愛の醸成につなげる。
- ・ 地域に伝わる文化を次世代へ継承する活動を通して，自分たちの住む郷土への誇りをもった児童生徒を育成する。
- ・ 幼児から高齢者による世代間交流活動を通して，「ひとり子も我が子」の精神に努めるとともに，ボランティア活動やふれあい活動を通して，ふるさとに誇りをもち，愛着をもてる子どもの育成を図る。
- ・ 子どもたちが放課後等を安全・安心に過ごし，多様な体験・活動を行うことができるよう，地域住民等の参画を得て，学習や体験・交流活動等に取り組む。

Q4 事業・活動の概要について簡潔に回答してください。（一部掲載）

- ・ 6泊7日の日程で青年の家に宿泊し，学校に通いながら炊事，洗濯，掃除，宿題等を仲間と協力して行う。また，週末には郷土のよさを学ぶ体験活動を行う。
- ・ 年間8回程度の活動を計画し，小学3年生から6年生を対象に，市内の史跡を巡る校区探検ツアーやカヌー・いかだ体験，野外炊飯，さとうきび刈りから黒糖作り体験等の体験活動を行う。
- ・ 各地区のふるさとのよさを生かした活動を実施する。花いっぱい運動，三世代ふれあい交流，ふるさと美化活動等
- ・ 「自分が住んでいる地域をもっとよくしたい，地域の課題解決に向けて自分が取り組めることはないか・・・」そのような考えをもつ受講生に向けて，様々な視点から地域づくりの参考になるような内容やフィールドワークを行い，地域づくりの課題や悩みをみんな考え，解決するノウハウを学習する。

Q8 他の主体との連携・協働について回答してください。

【39事業・活動より回答】

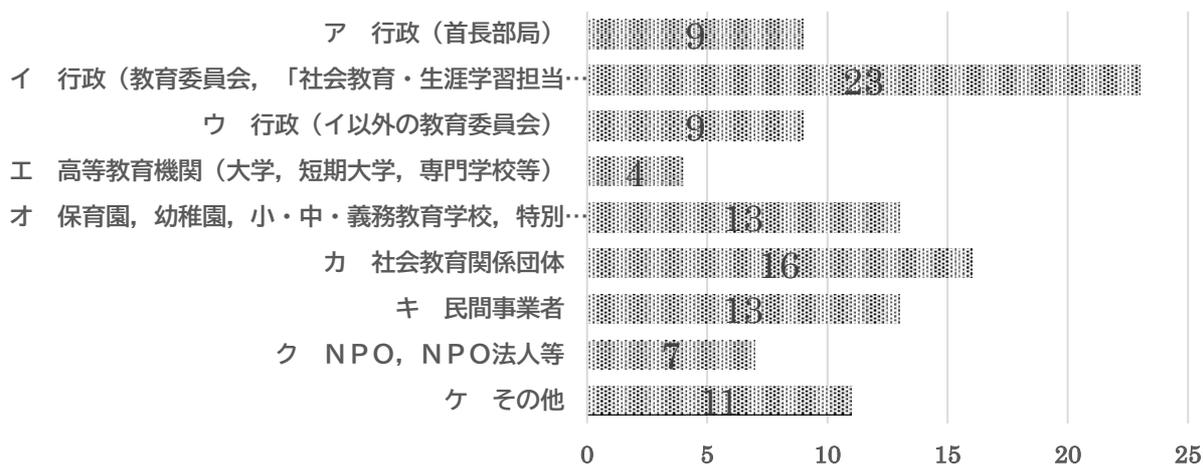


Q9 連携・協働している主体について回答してください。（9個まで選択可）

【39事業・活動より回答】

- ア 行政（首長部局）→9事業・活動
- イ 行政（教育委員会, 「社会教育・生涯学習担当課」）→23事業・活動
- ウ 行政（イ以外の教育委員会）→9事業・活動
- エ 高等教育機関（大学, 短期大学, 専門学校等）→4事業・活動
- オ 保育園, 幼稚園, 小・中・義務教育学校, 特別支援学校, 高等学校等
→13事業・活動
- カ 社会教育関係団体→16事業・活動
- キ 民間事業者→13事業・活動
- ク NPO, NPO法人等→7事業・活動
- ケ その他→11事業・活動

連携・協働している主体



Q10 Q9でその他を選択した場合、具体的な主体を回答してください。

(一部掲載)

- ・ 商工会議所（商工会）青年部，青年会議所，青少年育成推進員等
- ・ 地域まちづくり協議会
- ・ ジュニア・リーダークラブ
- ・ 高校生ボランティアグループ

Q11 事業・活動の成果について、簡潔に記載してください。（一部掲載）

- ・ グループで行動することで，他人を思いやることができた。また，離島での文化を知ることができた。
- ・ 異年齢集団生活や自然体験活動を通して，生命や自然を大切に作る心，他人を思いやる優しさ，社会性，規範意識，郷土愛を養うことができた。
- ・ 活動を通して学校・学年を超えた仲間との交流を深め，ふるさとの自然や歴史文化に触れ，地域の魅力を満喫する機会となった。
- ・ 今年度よりユース・リーダークラブを発足したことで，小学生から青年までの切れ目のない育成体制が整った。
- ・ 学習活動を通して，子どもたち同士，お互いを理解し尊重し合う姿勢が育まれ，また，地域の方々との交流を通して，子どもたちは社会とのつながりを意識し，自身の成長を実感できるとともに，地域の方々，中でも高齢者の方々にとっては生きがいを感じられる場ともなっている。
- ・ 受講生同士のゆるやかなネットワークができつつある。受講生が所属している地区コミュニティ協議会や自治会長等に学んだ新しい考え方を相談している。地域が劇的に変化したとは言えないが，前向きな姿勢で，できることから取り組んでいる人が増えているように思われる。
- ・ 実践者による講演や事例発表から，活動へのヒントやリーダーとしての心構え，つながりづくりの方法についてヒントを得ることができる。
- ・ 多様な団体からの参加者同士のグループディスカッションから，各団体における課題解決に向けたヒントを得ることができる。

Q12 事業・活動の課題について、簡潔に記載してください。（一部掲載）

- ・ 指導者の高齢化。
- ・ 体験プログラムの開発，講師の選定。予算縮減による財源の確保。
- ・ 団体のマッチング。参加者の固定化。Web配信，動画配信等のための機材調達。
- ・ 今後，持続可能な仕組みづくりや，新たな活動の展開の工夫。

Q13 事業・活動の今後の計画について、簡潔に記載してください。（一部掲載）

- ・ わが町ならではのメニューの考案。子どもたちにとって気付きになるようなメニューの考案。
- ・ 町の未来を担う子どもたちが大きな夢をもち，それを実現するために積極的に挑戦する姿勢を身に付けることができるよう計画している。
- ・ 単位子ども会の活動活性化のために，市教委として「子ども会手引き」の作成活用を行うとともに，育成会に対しての研修会を実施していく。

- ・ 町内会ごとの見守りを主とした寺子屋の開設を増やす。
- ・ 次年度以降も継続的に実施し，団体同士のマッチング等を通して，各団体の長所を生かした活動の更なる充実を支援していく。

< アンケート調査結果から読み取れること >

(1) 郷土かごしま（地域）のよさを生かした人づくり「不易流行」の視点から

【アンケート Q3・Q4・Q11・Q13 より考察】

教育の基本理念や普遍的な価値観を尊重し守ることは，地域社会を支える人づくりの基盤となっており，多くの団体が，様々な事業・活動に取り組んでいる。特に，異年齢集団の参加者のもと，集団生活や自然体験活動を通して，生命や自然を大切にする心，他人を思いやる優しさ，社会性，規範意識，郷土愛を養うことができている。一方，超少子高齢化社会のなかでは，社会教育事業を実施する際，参加人数の確保，指導者の確保，事業への継承等が，今後の課題となっている。今後は，社会教育事業を行うに当たり，多様化する社会，多文化共生社会に向けての一面も視野に入れながら，人と人をつなぐネットワークづくり（あるいは体制づくり）を構築することが，持続可能な次世代の人づくり及び地域社会の発展につながると考えられる。

(2) 学校・地域・家庭等が一体となった人づくり「連携・協働」の視点から

【アンケート Q8・Q9・Q10 より考察】

社会教育における連携・協働は，地域社会全体で子どもたちの成長を支えるために不可欠である。現在，地域学校協働活動の推進により，地域と学校の連携が進められているが，地域活動力の低下や学びをつなぐコーディネーター人材の不足，地域住民の参画意識の醸成等，課題も多く存在する。アンケートの結果においては，行政，社会教育団体等，各事業において，各関係機関や人材との連携・協働は行われている。今後は，各所属団体，NPO，民間企業等，幅広い関係機関とより連携・協働を行うことが持続可能な事業へとつながっていくと考える。

(3) 学校・地域・家庭等が一体となった人づくり「指導者・育成者」の視点から

【アンケート Q11・Q12・Q13 より考察】

今回のアンケート調査においては，各事業の課題のなかに，指導者・育成者の高齢化や人材不足が課題となっているとのことだった。今後は，次世代の指導者の育成として，中高生・青年層など若い世代に社会教育活動へ参加する機会を提供し，実践を通して，一人ひとりを尊重する優しさがつながっていく人材育成を行っていく必要がある。また，都道府県・市町村における社会教育主事の配置促進や社会教育士の活躍機会の拡充に向けた取組を推進することもより効果的な方策と考える。

6 地域を支える次世代の人づくりのための方策(提言)

審議の視点については、前述したが、アンケート調査結果分析を行うことで、アンケート調査に表れてこない課題や各団体の地域を支える次世代の人づくりに関する事業や活動について更に情報を得るために、関係機関（市町村関係課・社会教育団体・教育機関・NPO法人）に聴き取り調査を実施し、審議の視点も踏まえ、次の3つの提言で地域を支える次世代の人づくりのための方策を示す。

提言1 異年齢集団・多文化共生で育む体験・学びあい活動の推進

様々な地域の生活、自然、歴史、伝統文化、多文化共生等を教材とした体験型学習や交流学习及び社会教育施設等での活動を通して、年齢や立場を超えた学びあいを行いながら、他者を尊重し、地域や社会に参画する意識や、態度を高める取組を図る。

【具体例】 参考事例 P12～P13 アンケート調査結果「ねらい・概要」 P25～P28

ア 生活・自然体験を通じた学びあい

アンケート調査結果：出水市ふるさと学寮【出水市教育委員会生涯学習課】

イ 文化・伝承を通じた学びあい

アンケート調査結果：シマ唄・シマゆみた発表会【喜界町教育委員会生涯学習課】

ウ 学習支援・教えあい活動

アンケート調査結果：鹿屋寺子屋事業【鹿屋市教育委員会生涯学習課】

エ 社会参加・ボランティア体験活動

アンケート調査結果：funfantry 鹿児島SDGs体験【NPO法人：ミーサインフォーメーション・Net】

オ 多文化共生社会促進活動

参考事例：さつまふるさと体験塾【さつま町教育委員会社会教育課】

カ 異文化体験活動

アンケート調査結果：パナウル少年の船事業【与論町教育委員会生涯学習課】

キ 多文化共生・人権学習を通じた学びあい

提言2 学校・家庭・地域・各種団体・NPO・企業等の連携・協働の促進

学校・家庭・地域・各種団体・NPO・企業等が、それぞれの強みを生かしながら連携・協働する社会教育を促進する。特に、社会教育が核となって、地域全体で、大人と子どもの育ちあいができる仕組みづくりを行う。また、各種関係機関と共に、連携・協働を行いながらつながりある交流を積極的に推進する。学びをつなぐ地域コーディネーターの配置や、地域学校協働本部との連携強化を図る。

【具体例】 参考事例 P18～P21 アンケート調査結果「ねらい・概要」 P25～P28

ア 一人ひとりが自分らしい生き方の実現を目指すキャリア教育の実施

参考事例：地域の人材育成を主眼としたキャリア教育・社会教育【NPO法人：folklore forest】

イ ICTを活用した学びや交流の場の運営

参考事例：オンラインでの会員制交流事業SELFCommunity（学びや交流の場の提供）
【NPO法人：NPO法人薩摩リーダーシップフォーラム SELF】

ウ 地域学校協働活動における取組

アンケート調査結果：地域学校協働活動における文化・伝統の継承活動【枕崎市教育委員会生涯学習課】

エ 地域と学校との連携

すべての学校における地域学校協働推進体制の構築と積極的な推進

オ 学びをつなぐ地域コーディネーター養成

アンケート調査結果：市民大学「地域づくりを楽しむ(地域づくりボランティア)講座」
【薩摩川内市教育委員会社会教育課】

カ 「土曜学習」や放課後学習支援への地域人材の参画

キ 家庭教育支援の人材育成

ク 社会教育委員・社会教育主事・社会教育士等の活躍機会の拡充

提言3 ふるさと 郷土のよさを生かした未来をつくる地域教育力の継承・発展

県の偉人の足跡や教育的風土，伝統を生かした幅広い視野と高い見識を養う取組や人口減少，高齢化，防災，環境，福祉，平和等の地域課題を学習テーマとして位置付け，郷土の価値などについて，子どもから高齢者まで多様な世代が共に学びあい，郷土への理解と愛着を深めるとともに，未来をつくる地域の担い手の育成を図る。

【具体例】参考事例 P14～P17 アンケート調査結果「ねらい・概要」P25～P28

ア 地域活動の参画を通じた後継者育成

アンケート調査結果：ふるさと教育活動【湧水町教育委員会生涯学習課】

イ 郷土の自然・歴史・文化を生かした人づくり

参考事例：「あなたに届ける朗読会 高校生が読む最期の手紙」

社会教育団体：ことの葉日和

参考事例：「鹿児島学」と「かごしまと世界」の講義

教育機関（大学，短大，専門学校）：鹿児島県立短期大学

ウ 多世代交流による地域教育力の継承

参考事例：さつまふるさと体験塾【さつま町教育委員会社会教育課】

エ 学びを地域の未来づくりにつなげる実践

アンケート調査結果：かごしま伝統野菜里帰りプロジェクト【鹿児島大学教育学部】

オ 子どもの意見を尊重した，子ども主体による事業の実践と継続に向けて

・ジュニア・リーダークラブの育成等

カ 多世代読書・絵本読み聞かせ会の開催

キ 支える・支えられる関係性の学びの場の提供

・地域福祉施設の見学・ボランティア体験等

・生活困窮やヤングケアラーをテーマにした学習会等

・不登校及び不登校傾向や引きこもりの状態にある子どもや大人の社会とのつながりづくり

7 これまでの審議の経過

期 日	会 議	内 容
令和6年 8月22日(木)	令和6年度第1回 社会教育委員の会議	・審議のテーマについて ・審議の進め方について ・アンケート調査内容(案)について
令和7年 1月30日(木)	令和6年度第2回 社会教育委員の会議	・テーマの捉え方について ・アンケート調査内容について
令和7年 8月26日(火)	令和7年度第1回 社会教育委員の会議	・「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況アンケート調査結果・分析について ・「地域を支える次世代の人づくり」に関する提言に向けて
令和8年 1月23日(金)	令和7年度第2回 社会教育委員の会議	・審議のまとめ(案)について

8 おわりに

鹿児島県社会教育委員の会議では、令和6年度から2か年にわたって「地域を支える次世代の人づくり～郷土のよさを生かしたかごしまの創り手の育成～」をテーマとして審議してきた。

審議をまとめるに当たっては、令和6・7年度に実施した「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動調査アンケートの集計・分析結果と、令和7年度に実施した関係機関への聴き取りによる追跡調査等をもとに、「異年齢集団・多文化共生で育む体験・学びあい活動の推進」「学校・家庭・地域・各種団体・NPO・企業等の連携・協働の促進」「郷土のよさを生かした未来をつくる地域教育力の継承・発展」について検討・協議を行った。本審議は、この検討・協議をまとめたものである。

また、令和6年度からの第4期「鹿児島県教育振興基本計画」では、「IV 地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進」に「① 地域を支える次世代の人づくり」が明記されている。

このことも踏まえ、今回の提言が、教育行政施策や各市町村・団体等の具体的な取組等に生かされるとともに、各地域において、自立共生できる社会づくりを目指して、一人ひとりを尊重する優しさと創造力を大切にしたい体制づくりが図られることを期待する。

<参考事例>：市町村関係課・社会教育団体・教育機関・NPO法人等の取組

I 市町村関係課：さつま町教育委員会社会教育課

- 事業名：さつまふるさと体験塾

II 社会教育団体：ことの葉日和

- 事業名：「あなたに届ける朗読会 高校生が読む最期の手紙」

III 教育機関（大学，短大，専門学校）：鹿児島県立短期大学

- 講義名：「鹿児島学」と「かごしまと世界」

IV NPO法人：一般社団法人folklore forest

- 事業名：「地域の人材育成を主眼としたキャリア教育・社会教育」

V NPO法人：NPO法人薩摩リーダーシップフォーラム SELF

- 事業名：オンラインでの会員制交流事業SELFCommunity（学びや交流の場の提供）など

I 市町村関係課：さつま町教育委員会社会教育課

○ 事業名：さつまふるさと体験塾

1 【訪問先（団体，施設等）の概要，現在の事業・活動の取組等について】

(1) 団体名：さつま町教育委員会社会教育課

(2) 目的概要（さつまふるさと体験塾）

ア 設置：平成 18 年（宮之城町・鶴田町・薩摩町の合併によるさつま町の誕生翌年）。以降毎年実施。

イ 目的：ふるさとの豊かな自然に触れ，地域の文化や四季折々の特色を自分で体感し，ふるさとを再発見する。また異年齢集団による多様な体験活動で，自主性や忍耐力を高め，明日の郷土を担う心身ともにたくましく，思いやりのある心を持った「さつまっ子」を育成する。

ウ 主催：さつまふるさと体験塾実行委員会

エ 後援：さつま町教育委員会

オ 塾生：さつま町内小学 4 年生から中学 2 年生まで

（定員 35 名／令和 7 年度は 33 名／さつま町内の小学校から参加。小学 6 年生が多い）

(3) 取組

ア 実施期間 年間を通して，土日や夏休みを利用し，原則毎月 1 回実施。

イ 年間プログラム

	令和 6 年度	令和 7 年度
5 月	開講式・オリエンテーション	オリエンテーション・レクリエーション
6 月	さつま町子ども会リーダー研修（霧島自然ふれあいセンターでの宿泊）	町子ども会リーダー研修会（出水市青年の家で宿泊）
7 月	浴衣を着よう	多文化共生社会促進事業（外国人実習生との交流）
8 月	青少年中種子交流事業（中種子町青少年との交流・宿泊学習） 訪問	鶴の架け橋交流事業（青森県鶴田町青少年との交流・宿泊学習） 受入
8 月	鶴の架け橋交流事業（青森県鶴田町青少年との交流・宿泊学習） 受入	青少年中種子交流事業（中種子町青少年との交流・宿泊学習） 受入
10 月	町内探索ウォーキング	町内エネルギー探索
11 月	一日保育体験（町内保育所）	一日保育体験（町内保育所）
12 月	料理教室（郷土料理）	町内探索ウォーキング
1 月	文化・歴史を学ぶ	料理教室
2 月	親子で星空観察会	宮之城人形作り
3 月	閉講式・創作活動	閉講式・1 年の振り返り



中種子町での地引網体験の様子



多文化共生社会促進事業の様子

2 【事業・活動の成果及び課題に対する取組】

(1) 成果

ア 400人以上暮らすベトナムなど外国にルーツをもつ住民が暮らすさつま町において、国際交流事業を超えた多文化共生の地域づくりを推進する事業は、グローバル時代を生きる子どもたちにとって貴重な体験となっている。

イ 少子化時代において乳幼児と接する機会が少なかった子どもたちが、終日の保育体験を通して、家庭や子育ての大切さを学んでいる。

ウ 県内外（青森県鶴田町・中種子町）の子どもたちとの宿泊体験交流を通して、視野を広げたり友情を育むと同時に自立心を培っている。

エ 総体として、これからの町を考え関わっていけるように、地域の歴史・文化・産業など多様な角度から今日的な「ふるさとの再発見」ができるプログラムが、地域内外の協力をえて積み重ねられている点に大きな特徴がみられる。

(2) 課題

ア 子どもの減少により、参加者も減少傾向にある。

イ 参加する子どもの地域的・年齢的偏り（対象は中学2年までだが、小学生の参加者が多く、中学生の参加が少ない。異年齢集団づくりが容易ではない）。

3 【関係機関や各種団体等との連携や協働の取組について】

・町内小学校 ・保育所 ・町内食生活改善グループ ・さつまガイド ・国際交流協会 ・青森県鶴田町 ・中種子町 ・県立博物館（令和6年度） 上野原縄文の森（令和6年度）など。

4 【その他】

中学1年生から高校3年生ままでを対象にした「ジュニア・リーダークラブ」があり、月1回の定例会でアイデアを出し合い、子どもたちと交流を行ったり、地域のイベントなどでボランティア活動に取り組むなど、地域のリーダーとしての自覚を培っている（令和7年度は 会員数12名：中学生10人、高校生2人）。ふるさと体験塾は、それだけで完結するのではなく、こうした継続的発展が見通されていることも特筆できる。

5 【所感】

実践のキーワードとなる「異年齢集団」「地域伝統の継承」「体験活動」「リーダー養成」などは、鹿児島県下の青少年社会教育の伝統ともいえるものであり、こうした実践が追及され続けていることに、地域の教育力を再確認することができる。それに加え、「さつまふるさと体験塾」の内容や方法に、きわめて今日的な工夫がみられることは注目される。多文化共生やエネルギー探索、郷土資源の掘り起こしや県内外の繋がりづくりなど今日的な地域課題を含むと同時に、幅広い交流や実践やジュニアリーダーへと続く見通しをもった小・中・高生を視野にいれた実践、子どもを核にしつつ様々な機関・団体との連携・協働などによる組織運営などはその現れであろう。担当職員の方が「出会いの場をつくるのが社会教育の仕事」と言われていた通り、そうした場を多く設定されているのはもちろんのこと、それを通して次世代の育成の明確な目的をもって実践的事業が組まれている示唆的な事例である。

【聴き取り調査者： 岩橋委員・県教育庁社会教育課】

Ⅱ 社会教育団体：ことの葉日和

○ 事業名：「あなたに届ける朗読会 高校生が読む最期の手紙」

1 【訪問先（団体、施設等）の概要、現在の事業・活動の取組等について】

- (1) 団体名：「ことの葉日和」
- (2) 設立：令和3年度
- (3) 目的：散華された英霊の方々と同年代の高校生がその時代に思いを馳せ、考え、残された手紙や遺書を「同年代の高校生の声で朗読し語り継いでいく」ことに深い意義があると考え、多くの方のご理解とご協力をいただきながら、朗読会を開催している。

(4) 主な活動

ア 南さつま市万世特攻平和祈念館、かごしま近代文学館において、散華した特攻兵が残した家族への手紙や遺書等を同世代の高校生（有志）が「高校生が読む最期の手紙」として朗読を行う。

イ 令和3年度は、南さつま市の2高校の生徒の参加であった。令和4年度からは、南さつま市外の高校生も含めて開催している。



高校生による朗読会

2 【事業・活動の成果及び課題】

(1) 成果

ア 参加した高校生が最期の手紙に書かれている内容だけでなく、その時代背景や家族の様子などについて学芸員からの話を聞き、特攻兵の思いや願いを感じながら、聞いている人の心に届く朗読をしている。

イ 参加した生徒は、「上手に読む」ことより、書いた人の思いを受け「気持ちを届ける読み」を意識するようになり、同時に「平和とは何か」について考える機会となっている。

ウ 参加した生徒の中には、ラジオドラマやドキュメント番組を制作したり、祖父等から聞いた戦争体験談などをもとに朗読会参加希望をしたりするなど広がりも見せつつある。



朗読会前、慰霊碑に礼拝している様子

(2) 課題

ア 特攻平和祈念館がない地域でもこのような取組があることを知っていただきたい。

イ 今後もこの「高校生が読む最期の手紙」の朗読を続けていきたい。

ウ 朗読のよさは、聞く人に気持ちが伝わるのが大切であるが、聞き手のいない子供たちが多いことが残念である。いろいろな機会に、朗読のすばらしさを感じてい

ただきたい。

3 【関係機関や各種団体等との連携や協働の取組について】

小学校で朗読の学習や朗読会の行事を行ったり，社会教育機関での朗読講座や一般の方を対象とした朗読教室などを開催したりするなどの取組を行っている。

4 【今後の取組や計画について】

小・中・義務教育学校，高等学校や社会教育機関，一般団体等と連携を更に推進し，朗読のすばらしさを多くの方々に体験していただきたい。

【聴き取り調査者： 下江委員・岩橋委員・県教育庁社会教育課】

Ⅲ 教育機関（大学，短大，専門学校）：鹿児島県立短期大学

○ 講義名：「鹿児島学」と「かごしまと世界」

1 【鹿児島県立短期大学「鹿児島学」と「かごしまと世界」の講義から】

(1) 現在の事業及び活動の取組

令和2年度より，全学年全学科対象に「鹿児島学」と「かごしまと世界」の講義を各々隔年ごとに実施。令和6年度は「鹿児島学」講義を半期15回実施，令和7年度は「かごしまと世界」の講義を半期15回予定で実施。いずれも学生の選択科目であり，全ての学科学生に共通する講義である。振り返りテストや学生アンケートも実施している。

(2) 「鹿児島学」の概要

歴史，文学，まちづくり，農業と食の視点から鹿児島島の特性を理解し，鹿児島島の未来を考える。

(3) 「かごしまと世界」の概要

ア グローバルな視点から鹿児島島を評価し，海外との交流促進の可能性を学ぶ。

イ 郷土鹿児島島の特徴や強みを再認識し，地域発展に貢献する国際人材を育成する。

ウ 産業・貿易・観光各分野における本県のポテンシャルを最大限に活かした地域振興を担う国際人材を育成する。

2 【事業・活動の成果及び課題に対する取組】

(1) 成果

ア 学生は2年間通して「鹿児島学」と「かごしまと世界」の両方の講義を学ぶことができる。

イ 学生のほとんどが本県出身者なので本講義を通じて郷土理解を深め，様々な視点から地域振興を考える場の創出に寄与している。

(2) 課題

ア 本講義がきっかけで更なる進学及び就職にどのように繋がったかの検証までは至っていない。

イ 講義の進め方は座学のみでフィールドワークは実施していない。

ウ 学外講師の掘り起こし。



「かごしまと世界」講義の様子



講師による薩摩琵琶の演奏

3 【関係機関や各種団体等との連携や協働の取組について】

各分野で活躍している学外からの講師や、関係機関との連携・協働を行っている。

4 【今後の取組や計画について】

学外講師の更なる掘り起こしや、学生アンケートの精査分析や学内図書館の“郷土コーナー”の更なる活用を図る。

【聴き取り調査者： 瀧川委員・岩下委員・県教育庁社会教育課】

IV NPO法人：一般社団法人 folklore forest

○ 事業名：「地域の人材育成を主眼としたキャリア教育・社会教育」

1 【訪問先（団体、施設等）の概要、現在の事業・活動の取組等について】

(1) 団体名：一般社団法人 folklore forest

(2) 目的：当法人は、鹿児島県を中心とした人口流出地域にて、豊かで持続可能であるための地域教育や福祉を主とした文化の醸成、既存の就労システムにとらわれない地域特性を活かした新たな生業の興隆を目的として活動を行う。また、大人だけではなく子どもや若者を含め地域総掛かりで行うことを通じて、次世代への新たな伝承を創造していくことを目的に活動を行う。

(3) 現在の事業・活動等

ア 一人ひとりが自分らしい生き方の実現を目指すキャリア教育に関する取組

○キャリア教育プログラムの提供

- ・ 県内私立高校（一部）の特色ある総合学習プログラムの企画運営（高校生）
社会人講話による地域理解，高等教育機関調べなどを1年間かけて行う。
- ・ 1泊2日の課題解決型プログラムの開催（対象：高校生・大学生）
大学生のサポートのもと，企業からテーマをもらい課題解決を行う2日間。
- ・ 志学館大学「キャリア開発演習」
演習を通じて他者との交流を通じて，社会人基礎力の醸成を行う。

イ 桜島での社会教育の取組

○体験・移住・交流「桜島のゲストハウス iko てらすにおける体験活動や催しの開催」

- ・ 食や自然，各種テーマを設けて，体験活動や学習会を不定期に開催。
- ・ 体験プログラムの提供
※鹿児島市に移住定住を検討している方や，桜島について学び，体感したい方向けに，より魅力を感じてもらうための体験プログラムを提供している。
※改新地域コミュニティ協議会による運営。

2 【事業・活動の成果及び課題に対する取組】

(1) 成果

ア 他校生徒や大人との接点による学びを行うことで，多様な他者との交流を行うことができた。

イ 県内の学校現場や関係者とのネットワークについて

各事業の目的に向けた学びに向けて，大人が連携し何が出来るか考え，その後も，関係者とのつながりを継続している。

ウ 参加者が運営者に

プログラムに参加した学生が社会人となり，各事業や活動などの取組に運営者として携わり協力をもらっている。

(2) 課題

ア 資金調達の難しさ

校外の取組は参加費をとらないため、助成金や寄付などを募り運営している。

イ 人材の不定着

運営において、新たに人を雇用せずに、プロジェクトごとに運営ボランティアを募っている。

ウ 対象生徒へのアプローチの難しさ

公募型のプログラムを行う際、参加して欲しい児童生徒層を想定するが、それに近い児童生徒の参加は少ない状況である。

3 【関係機関や各種団体等との連携・協働の取組について】

- ・ 県内の大学・高校，企業・民間組織，県や市の関連部局など
- ・ 桜島島内の事業者，改新地域コミュニティ協議会など
- ・ ゲストハウスに宿泊するお客さまなど

4 【今後の取組や計画について】

桜島は，3つの中学校と4つの小学校が統合し，令和8年度から義務教育学校が開校する。同時に団塊世代が後期高齢者となり，人口減少が加速することが予測される。変化が大きいこれからは，島内外の人の力を借りた，桜島だからできる学びや体験を展開することで地域力の底上げを図っていきたいと考える。



高校生と大学生と一緒に地域課題を考える様子



にわたりのさばき方を学ぶ会

【聴き取り調査者： 米蔵委員・県教育庁社会教育課】

V NPO法人：NPO法人薩摩リーダーシップフォーラム S E L F

- 事業名：オンラインでの会員制交流事業 S E L F C o m m u n i t y（学びや交流の場の提供）など

1 【訪問先（団体，施設等）の概要，現在の事業・活動の取組等について】

- (1) 団体名：特定非営利活動法人 薩摩リーダーシップフォーラム S E L F
- (2) 目的：一般市民に対して，社会教育，地域振興，学術振興，環境保全，子どもの健全育成，経済活動の活性化，情報化社会の発展に関するオフライン，オンライン上でのセミナー，イベントを通じた学びと交流事業を行い，個人の向上を通じた S D G s 達成に寄与すること。（内閣府ホームページ）
- (3) 現在の事業・活動等（一部：内閣府ホームページ）
 - ア 一般市民，団体等に対しての学びや交流の場を提供する事業
オンラインでの会員制交流事業 S E L F C o m m u n i t y の提供で学びや交流場の提供を行う。
 - イ 地域活性化に関する事業
地域活性化の取組視察ツアーとワークショップを屋久島町で行った。
 - ウ 社会課題の解決を支援する事業
「薩摩会議」と題した3日間のオンライン／オフラインセミナーを開催し，地域の活性化に向けた取組を行った。
 - エ 産業振興に関する事業
翌年度に向けて実施準備中である。
 - オ 施設の整備，管理運営に関する事業
県庁18階コワーキング施設の管理運営を行い，市民が安心して利用できる施設の提供に取り組んだ。

2 【鹿児島で働く若者を増やすために】

- (1) 活動のきっかけ
 - ア 明治維新150年をきっかけに，これからの社会の将来を考えたときに，危機意識をもった。
 - イ 部分ではなく，地球規模という捉え方，コミュニティ形成の必要性
 - ウ 人づくり，組織づくりの必要性
- (2) 若者の県外流出に注目
 - ア 鹿児島に多くの魅力ある働く場があれば。
 - イ 新しい創意・工夫を生み出せる働く場所，企業が必要。
 - ウ 地域の中に，企業を多く位置づけした考え方。
 - エ 企業が魅力あれば，若者が残る，帰ってくる。
 - オ 企業と学校との連携（総合的な学習），他団体との連携（社会貢献）。
 - カ 企業の変化が地域に影響をもたらす。
 - キ 企業にとっても質の向上，人材確保，企業自身の宣伝等のメリット。
 - ク 地域にとっても活性化，企業と学校，他団体とのつながりによるコミュニティ

形成等のメリット。

ケ 地域と企業の持続可能な運営。

コ 「地域で子どもを育てる」という考えを多くの企業でももつこと。

サ 鹿児島ではたらく若者が増えてほしい。そのためには、魅力ある仕事を。

3 【関係機関や各種団体等との連携・協働の取組について】

学校や行政，様々な団体とつながりがあり，団体等をつなぐ役割を担っている。

4 【今後の取組や計画について】

部分ではなく，地球規模という捉え方から，コミュニティの形成をめざし，人づくり，組織づくりの学びの場を提供したり，団体等をつなぐ役割を担ったりしていく。

【聴き取り調査者： 岩橋委員・県教育庁社会教育課】

<資料編>

「地域を支える次世代の人づくり」に関する 事業や活動状況アンケート調査

1 調査の実施方法

- (1) 調査手法：
鹿児島県電子申請システムによる
- (2) 調査地域：鹿児島県全域
- (3) 調査対象 ※124団体等依頼
- ア 県庁 青少年男女共同参画課 1
 - イ 市町村関係課 43市町村
 - ウ 社会教育団体 43市町村
 - エ 教育機関（大学，短大，専門学校）（抽出） 20
 - オ 民間事業者（抽出） 8
 - カ NPO等（抽出） 9
 - キ その他（コミュニティー協議会，町内会等）
- (4) 調査期間：令和7年3月8日(土)～4月10日(木)

2 回答者属性

- (1) 回答件数：42件
- (2) 回答者所属：
- ア 県庁 青少年男女共同参画課 : 1件
 - イ 市町村関係課 : 27件
 - ウ 社会教育団体 : 1件
 - エ 教育機関（大学，短大，専門学校等） : 9件
 - オ 民間事業者 : 0件
 - カ NPO等 : 2件
 - キ その他（コミュニティー協議会，町内会等） : 2件

(3) 所属エリア

鹿児島市	鹿児島	南薩	北薩	始良・伊佐	大隅	熊毛	大島	計
14	1	4	5	4	5	4	5	42

3「地域を支える次世代の人づくり」に関する事業や活動状況調査 各質問:回答

No.	1 団体等の属性について	Q2 団体等の名称について	Q1 実施状況について(令和6年度)
1	ア 県庁関係課	鹿児島県青少年男女共同参画課	ア 実施している
2	イ 市町村関係課		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
3	イ 市町村関係課	徳之島町教育委員会	ア 実施している
4	イ 市町村関係課		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
5	イ 市町村関係課	指宿市教育委員会生涯学習課	ア 実施している
6	イ 市町村関係課	喜界町教育委員会生涯学習課	ア 実施している
7	イ 市町村関係課	出水市教育委員会生涯学習課	ア 実施している
8	イ 市町村関係課	南種子町教育委員会	ア 実施している
9	イ 市町村関係課	霧島市教育委員会社会教育課	ア 実施している
10	イ 市町村関係課	枕崎市教育委員会生涯学習課	ア 実施している
11	イ 市町村関係課	十島村教育委員会教育総務課	ア 実施している
12	イ 市町村関係課		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
13	イ 市町村関係課	さつま町教育委員会社会教育課	ア 実施している
14	イ 市町村関係課		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
15	イ 市町村関係課	南さつま市教育委員会生涯学習課	ア 実施している
16	イ 市町村関係課	与論町教育委員会生涯学習課	イ 今は実施していないが, 来年度以降実施を予定している
17	イ 市町村関係課	鹿児島市中央公民館	ア 実施している
18	イ 市町村関係課	西之表市教育委員会 社会教育課	ア 実施している
19	イ 市町村関係課	湧水町教育委員会生涯学習課	ア 実施している
20	イ 市町村関係課	阿久根市教育委員会生涯学習課	ア 実施している
21	イ 市町村関係課	南九州市社会教育課	ア 実施している
22	イ 市町村関係課	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	ア 実施している
23	イ 市町村関係課		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
24	イ 市町村関係課	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	ア 実施している
25	イ 市町村関係課	鹿屋市教育委員会生涯学習課	ア 実施している
26	イ 市町村関係課	薩摩川内市教育委員会社会教育課	ア 実施している
27	イ 市町村関係課	錦江町教育課	ア 実施している
28	イ 市町村関係課	鹿児島市立少年自然の家	ア 実施している
29	ウ 社会教育団体(子ども会, 青年団, 高齢者団体等)	天城町教育文化の町推進会議	ア 実施している
30	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
31	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	ア 実施している
32	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
33	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
34	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)	鹿児島県立短期大学	ア 実施している
35	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
36	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
37	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)	鹿児島女子短期大学	ア 実施している
38	エ 教育機関(大学, 短期大学, 各種学校, 高校等)	鹿児島大学教育学部	ア 実施している
39	カ NPO等	ミーサインフォーメーションNet	イ 今は実施していないが, 来年度以降実施を予定している
40	カ NPO等	一般社団法人folklore forest	ア 実施している
41	※ その他コミュニティ協議会, 町内会等 具体的に下の欄に入してください。		ウ 実施しておらず, 来年度以降も実施する予定はない
42	※ その他コミュニティ協議会, 町内会等 具体的に下の欄に入してください。	細山田コミュニティ協議会, 串良公民館細山田分館	ア 実施している

Q2, 3, 4 貴団体の名称, 事業名, 活動のねらい, 概要について簡潔に回答してください。

No.	団体名	事業名	ねらい	概要
1	鹿児島県青少年男女共同参画課	かごしま地域塾推進事業	鹿児島の教育的風土や伝統を生かして、子どもたちを地域ぐるみで育む「かごしま地域塾」の活動を支援するとともに、県内全域への普及・拡大を図り、郷土(ふるさと)に根ざした人材を育成する。	(1)地域塾への活動支援助成(2)優れた地域塾の認証(3)かごしま地域塾活動活性化セミナーの開催
2	徳之島町教育委員会	徳之島町インターンシップ教育事業	望ましい勤労観や豊かな職業観を育むためや将来の重要な町の人材として夢の実現に向け努力する子どもを育成する。	令和7年度は7月から8月にかけて、地理的に近接している沖縄を予定している。翌年2月に成果発表を行う予定である。
3	指宿市教育委員会生涯学習課	指宿を自慢できる子どもづくり事業	全ての児童生徒に子どもの頃から本市の魅力を感じることができる活動に参加してもらうことで、将来的に本市を自慢することのできる成人の育成、そして保護者・育成者もこれに帯同してもらうことで本市の素晴らしさを保護者・育成者が認知し、子どもと共に感じてもらうことを目指す。	「発見！いぶ好き探検隊～開聞岳への挑戦～」と銘打ち、開聞岳登山を行う。事前研修会を行い、開聞岳の自然や歴史等について学ぶとともに、KYTトレーニングを通して集団活動で必要な知識や考え方について学ぶ。当日は、班編成を行い、異年齢集団での登山を行う。下山後は、地域女性団体連絡協議会のメンバーが準備したカレーライス等を全員で味わう。
4	喜界町教育委員会生涯学習課	シマ唄・シマゆみた発表会	喜界町の伝統文化について、一緒に考える機会にすること。	各小・中学校の総合的な学習の時間で地域の方から学び、それをシマ唄・シマゆみた発表会で発表する。
5	喜界町教育委員会生涯学習課	喜界町・伊佐市交流リーダー育成サマーキャンプ	姉妹町である伊佐市の子どもたちと喜界町の子どもたちで喜界島を散策しながら学び、交流を深めること	喜界島で2泊3日のサマーキャンプを行い、喜界島の自然に触れたり、文化を学んだりしながら交流を深める
6	出水市教育委員会生涯学習課	出水ふるさと学寮	青少年が親元を離れ、異年齢集団での生活体験を通じ、基本的な生活習慣や自立心を身につけ、社会性・自主性を磨き、人と人ともつながりを大切にすることを養うとともに、郷土愛の醸成につなげる。	6泊7日の日程で青年の家に宿泊し、学校に通いながら炊事、洗濯、掃除、宿題などを仲間と協力して行う。また、週末には郷土の良さを学ぶ体験活動を行う。
7	南種子町教育委員会	ジュニアリーダークラブ「コスモス」の育成	高校生を対象に、様々な活動をとおしてリーダーとしての資質を高め、地域の青少年のリーダーとして青少年活動の充実に寄与することを目的に活動する。	研修会の実施、リーダー相互の情報交換及び他団体との交流、町等の行う各種行事の協力等
8	霧島市教育委員会社会教育課	きりしまっ子立志育成事業「きりしまっ子の体験事業(自然体験編)」	郷土に誇りと愛着をもち、将来の霧島市を担う心身ともにバランスのとれた感受性豊かな「きりしまっ子」を育成する。	市内小学校5・6年生から中学生を対象に、登山や野外炊飯、カヌー等の体験活動及び宿泊体験を行う。
9	枕崎市教育委員会生涯学習課	枕崎ジュニアリーダークラブにおける諸活動	子ども会大会などの司会・運営補助、県や地区の研修会への参加、市の行事でのボランティアなどの活動をとおして、リーダーとしての知識・技能・態度を身に付けた将来の地域を担う人材を育成することをねらいとしている。	・子ども会大会などの司会、運営補助を行う。・県や地区の研修会への参加、市の行事でのボランティアなどの活動を行う。
10	枕崎市教育委員会生涯学習課	地域学校協働活動における文化・伝統の継承活動	地域に伝わる文化を次世代へ継承する活動をとおして、自分たちの住む郷土への誇りもった児童生徒を育成する。	・伝統芸能の継承活動を行う。・校区内史跡・文化財巡りの活動を行う。

No.	団体名	事業名	ねらい	概要
11	十島村教育委員会教育総務課	海外ホームステイ事業	見聞を広め、国際感覚の育成、自立心の向上等に寄与する。	オーストラリアホームステイ14日程度、帰国後報告会。
12	さつま町教育委員会社会教育課	さつまふるさと体験塾	ふるさとの豊かな自然に触れ、地域の文化や四季折々の特色を自分で体験・体感し、ふるさとを再発見する。また、異年齢集団による交流で、協調性、自主性を養いたくましい「さつまっ子」を育成する。	・浴衣を着よう ・星空観察会 ・一日保育体験 ・料理教室 ・文化、歴史を学ぶ ・種子町交流事業 ・青森県鶴田町交流事業
13	南さつま市教育委員会生涯学習課	南さつま市二十歳のつどい	二十歳を迎えた青年が、大人としての責任や義務を自覚し、強く生き抜くための意欲を高めるとともに、南さつま市のまちづくりのための大きな力となるよう門出を祝い激励する。	現在、南さつま市に居住している者、また、南さつま市内の中学校を卒業した者並びに居住者。
14	南さつま市教育委員会生涯学習課	令和6年度「日新公いろは歌」かるた取り大会	郷土の教え「日新公いろは歌」を生かした心の教育の推進	小学校及び義務教育学校の4年生、5年生、6年生が各学校で取組み、2月初旬に大会を開催する。
15	与論町教育委員会生涯学習課	パナウル少年の船事業	規律ある集団生活の実践や体験及び異年齢間の相互学習を通して、健全な人格の形成に努め、研修先の史跡・産業・文化の見聞や人々との交流において、自立の精神を養い明日の郷土を担う心身ともに逞しく思いやりの心をもったリーダーの育成を目指す。	事前説明会(事前研修)、与論供利港発→船内見学及びレクリエーション・船内泊、鹿児島新港着→自然の家等宿泊、自然体験学習、姉妹町等訪問し歴史や文化を学ぶ、事後研修 等
16	鹿児島市中央公民館	青少年、親子、家庭教育、成人、高齢者等を対象とした講座	地域のニーズと地域の特色を生かして、教養の向上、健康の増進等を図る	講座ごとに講義を聞いたり、制作や運動等の活動を行う。講座によっては、文化祭等で発表する場を設定している。
17	西之表市教育委員会 社会教育課	ふるさとまなび～隊	様々な体験学習を通して、ふるさと(西之表市)の自然や文化などを学び、また異年齢で交流することで豊かな人間関係や規範意識、社会性を養うことを目的に実施している。	年間8回程度の活動を計画し、小学3年生から6年生を対象に、市内の史跡を巡る校区探検ツアーやカヌー・いかだ体験、野外炊飯、さとうきび刈りから黒糖作り体験などの体験活動を行う。
18	湧水町教育委員会生涯学習課	ひと声添えたあいさつ運動愛の安全パトロール強調期間	子どもたちを見守り、安心・安全な環境づくりを目指す。	学校の学期はじめ(5日程度)の登校時間に事務局による交通パトロールを行う。また、育成者や地域住民にも見守りを呼びかけて町民全体で児童・生徒の見守りを行う。
19	湧水町教育委員会生涯学習課	ふるさと教育活動	幼児から高齢者による世代間交流活動をととして、「ひとん子も我が子」の精神に努めるとともに、ボランティア活動やふれあい活動をととして、ふるさとに誇りを持ち、愛着を持てる子どもの育成を図る。	各地区のふるさとのよさを生かした活動を実施する。花いっぱい運動、三世代ふれあい交流、ふるさと美化活動等
20	阿久根市教育委員会生涯学習課	あくねキッズスクール ～阿久根自然大好きふれあい隊～	阿久根市の自然を生かした体験活動を実施することにより、「郷土阿久根」を理解する機会を通して、体力・気力の向上、郷土を愛する心情、公共心などを育み、心身ともにたくましく、道徳心のある青少年の育成を図る。	海浜活動、ふるさと学習、野外活動、交流活動、創作活動等

No.	団体名	事業名	ねらい	概要
21	阿久根市教育委員会生涯学習課	阿久根ジュニア・リーダークラブ「BAMBI」	会員相互の連携を図りながら、様々な活動を通してリーダーとしての資質を高めるとともに、地域社会の発展に寄与する。	自治体行事におけるボランティア活動、レクリエーション指導、清掃活動、他団体との交流
22	南九州市社会教育課	青少年国内派遣事業	南九州市と青森県平川市の中・高生の相互訪問交流を通して、文化や自然等の違いに気づき、郷土理解や郷土を愛する態度を育み、地域に貢献しようとする青少年の育成をねらいとする。	相互訪問(7月→受入れ・12月→派遣)訪問先で交流会を開催し、お互いの方言等を取り入れた発表を披露する。また、2月に事後研修会を開き、事業で学んだことを実行委員や保護者の前で発表する。
23	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	学び広げる地域リーダー養成研修会	1 各種団体のリーダーとしての資質の向上を図り、それぞれが担う組織や場においてリーダーとして活躍できる人材を育成する。2 社会教育を基盤にした人づくり、つながりづくりを目指し意義や役割について研修し、生涯学習の振興に資する人材を育成する。	・講演または事例発表 ・情報交換(グループディスカッション)など
24	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	子ども会リーダー研修会	子ども会の充実・活性化を図るために、子ども会会員、イン・リーダー及びジュニア・リーダーを対象に、子ども会活動の進め方とリーダーの役割などについて研修し、子ども会のリーダー養成、自主的な活動の促進及び体験活動の充実等に資する。	子ども会活動の進め方とリーダーの役割 講義 ・体験活動の充実と危険予知トレーニング 演習 ・レクリエーションの進め方 実技
25	鹿屋市教育委員会生涯学習課	子ども会リーダー育成	小学生から青年までの段階に応じた活動を通して、鹿屋の発展に貢献しようとする青少年を育成する。	小学生は、イン・リーダー研修会、中・高校生は、ジュニア・リーダークラブとして定例会を通じた研修及び子ども会の支援、大学生・青年は、ユース・リーダークラブとしてジュニア・リーダーの支援・指導を行う。
26	鹿屋市教育委員会生涯学習課	鹿屋寺子屋事業	学習活動の支援や地域のことを知る活動、地域の方々との交流活動等を実施し、子ども同士の学びあう楽しさと郷土愛を育み、高い教育力をもつ地域づくりと安心して子育てできるまちづくりに資する。	学習活動(自学自習)を主とし、月に1回程度は体験活動を組み入れる。
27	薩摩川内市教育委員会社会教育課	市民大学「地域づくりを楽しむ(地域づくりボランティア養成)講座」	「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を具体的に企画し、実践する人材を育成する。	「自分が住んでいる地域をもっと良くしたい、地域の課題解決に向けて自分を取り組めることはないか、…」そのような考えをもつ受講生に向けて、様々な視点から地域づくりの参考になるような内容やフィールドワークを行い、地域づくりの課題や悩みをみんなで考え、解決するノウハウを学習する。
28	錦江町教育課	トワイライト2024事業	・本町と自然環境や生活文化の異なる地域での異文化体験や異年齢による集団生活体験等を趣旨とする研修を実施し、リーダーの養成や地域の発展に貢献しようとする青少年を育成する。	・児童生徒と指導者が異年齢交流を通して、視野を広め、フィールドワークや意見交換を実施。
29	鹿児島市立少年自然の家	次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」	国内外で活躍する講師との出会いやALTとの交流、鹿児島島の歴史と文化に関する学習、宿泊体験活動等を通して、郷土に愛着と誇りを持ち、グローバルな視野で次世代を切り拓き社会をリードする心身ともにたくましい人材の育成を図る。	・異文化理解や鹿児島島の歴史に関するワークショップやALTへの英語での観光案内、企業や施設等での現地研修などを行い、卒業式前に、将来の夢等について発表する。
30	天城町教育文化の町推進会議	天城町教育文化の町各地区推進協議会	ユイの心と郷土愛をもち、島担うひとづくり	それぞれの地区において、ユイの心と郷土愛をもち、島担うひとづくりを目標にかかげ、自然や文化、協働活動をおこない。2年に1回、教育文化の町推進大会で発表を行っている。

No.	団体名	事業名	ねらい	概要
31	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	栄養士科卒業研究 鹿児島産食材の研究 レシピ開発、普及のための研究	卒業研究を通し、鹿児島の食材について学び、考え、産業の発展に貢献する意欲を育成する。	小グループに分かれ、県内各地の特産物や郷土料理を研究し、県の「かごしまおいしいものプロジェクト」に応募する。採択されない題材も卒業研究に向けて研究を深め、卒業論文の発表や作品の発表を行う
32	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	鹿児島の郷土料理を学ぶ、「郷土料理の日」	給食実習を通して、実際に郷土料理を作り、ふるまい、学ぶことで地域の食と味覚の伝統を守る。	大量調理の実習の一環として、さつますもじや春駒を作り、学内給食として提供する。
33	鹿児島県立短期大学	「鹿児島学」講義の開講(隔年開講)	本県への理解を深め、地域の一員として本県のあるべき姿を考察する若者を育成する。	教員や、各分野で本県発展に寄与されてきた講師の講義を通じて、歴史、文学、まちづくり、農業と食の視点から鹿児島の特性を理解し、鹿児島の未来を考える。
34	鹿児島女子短期大学	かごしま郷土料理講座	鹿児島の郷土料理を学び、継承する人材を育成する	本学学生を対象とした鹿児島の郷土料理を食物栄養学科教員が教授し、食文化を継承する人材を育成する
35	鹿児島女子短期大学	鹿児島女子短期大学公開講座	地域貢献活動のひとつとして、地域社会に向けた講座の開講	地域貢献活動として、地域住民の生涯教育の機会を提供するため、本学教員、外部講師の専門性を活かした公開講座の開講
36	鹿児島大学教育学部	かごしま伝統野菜里帰りプロジェクト	長らく地域の食文化や人づくりを醸成してきた伝統野菜を食育の学習材とすることで、地域を知り、愛着を持ち、伝統文化を守りつなぐことで児童生徒の地域へのアイデンティティを育むことを目的とする。	栽培・収穫・聞き取り・調理・啓発・遺伝資源の保存を行う。年度末には各校リモート交流を行い、成果発表を行う。
37	ミーサインフォーメーションNet	funfantry 鹿児島のsdgs体験	高校生ボランティアグループ しるまーずさんと一緒に、イベントの運営を通して、鹿児島の産業や歴史、人権問題などを楽しく学び、その学びを伝える役割を担ってもらいながら、地域や産業の発展に貢献しようとする意識を育てる	sdgsな黒豚ものがたりのイベントの情報発信部分を担ったり、仙巖園の歴史を学び、その学びを小学生に分かりやすく伝えながら、小学生の自由研究の手伝いを行う
38	一般社団法人 folklore forest	新・郷中教育推進事業(鹿児島市教育委員会生涯学習課事業)	子どもたちが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、地域住民等の参画を得て、学習や体験・交流活動等に取り組む。	年間25回程度、月曜日の放課後を使い異年齢間や地域住民の協力を得た学びや体験活動の提供
39	細山田コミュニティ協議会、串良公民館細山田分館	みんなで踊ろう細中音頭	40年ほど前に細山田中学校の教員が作成した細山田音頭を復活させ、校区活性化の一助とする。	体育大会、地区祭り等で、地区民全員で踊る。そのための普及活動も行う。

○実施状況について(令和6年度) 42団体回答
 ア 実施している 29団体(複数事業回答団体有り)
 イ 今は実施していないが、来年度以降実施を予定している 2団体
 ウ 実施しておらず、来年度以降も実施する予定はない 11団体

Q5 貴団体の事業・活動の対象となる年代を選択してください。

No.	団体名	事業名	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	鹿児島県青少年男女共同参画課	かごしま地域塾推進事業	○	○						
2	徳之島町教育委員会	徳之島町インターンシップ教育事業		○						
3	指宿市教育委員会生涯学習課	指宿を自慢できる子どもづくり事業	○	○						
4	喜界町教育委員会生涯学習課	シマ唄・シマゆみた発表会	○	○						
5	喜界町教育委員会生涯学習課	喜界町・伊佐市交流リーダー育成サマーキャンプ	○	○						
6	出水市教育委員会生涯学習課	出水ふるさと学寮	○	○						
7	南種子町教育委員会	ジュニアリーダークラブ「コスモス」の育成		○						
8	霧島市教育委員会社会教育課	きりしまっ子立志育成事業「きりしまっ子の体験事業(自然体験編)」		○						
9	枕崎市教育委員会生涯学習課	枕崎ジュニアリーダークラブにおける諸活動		○						
10	枕崎市教育委員会生涯学習課	地域学校協働活動における文化・伝統の継承活動		○						
11	十島村教育委員会教育総務課	海外ホームステイ事業		○						
12	さつま町教育委員会社会教育課	さつまふるさと体験塾	○	○						
13	南さつま市教育委員会生涯学習課	南さつま市二十歳のつどい		○	○					
14	南さつま市教育委員会生涯学習課	令和6年度「日新公いろは歌」かるた取り大会	○	○						
15	与論町教育委員会生涯学習課	バナウル少年の船事業		○						
16	鹿児島市中央公民館	青少年、親子、家庭教育、成人、高齢者等を対象とした講座	○	○	○	○	○	○	○	○
17	西之表市教育委員会社会教育課	ふるさとまなび～隊		○						
18	湧水町教育委員会生涯学習課	ひと声添えたあいさつ運動愛の安全パトロール強調期間	○	○	○	○	○	○	○	○
19	湧水町教育委員会生涯学習課	ふるさと教育活動	○	○	○	○	○	○	○	○
20	阿久根市教育委員会生涯学習課	あくねキッズスクール～阿久根自然大好きいれあい隊～		○						

No.	団体名	事業名	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
21	阿久根市教育委員会生涯学習課	阿久根ジュニア・リーダークラブ「BAMBI」		○						
22	南九州市社会教育課	青少年国内派遣事業		○						
23	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	学び広げる地域リーダー養成研修会		○	○	○	○	○	○	○
24	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	子ども会リーダー研修会	○	○						
25	鹿屋市教育委員会生涯学習課	子ども会リーダー育成		○	○					
26	鹿屋市教育委員会生涯学習課	鹿屋寺子屋事業	○	○						
27	薩摩川内市教育委員会社会教育課	市民大学「地域づくりを楽しむ(地域づくりボランティア養成)講座」			○	○	○	○	○	○
28	錦江町教育課	・トワイライト2024事業		○						
29	鹿児島市立少年自然の家	次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」		○						
30	天城町教育文化の町推進会議	天城町教育文化の町各地区推進協議会		○	○	○	○	○	○	○
31	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	栄養士科卒業研究 鹿児島産食材の研究 レシピ開発、普及のための研究		○	○	○	○			
32	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	鹿児島の郷土料理を学ぶ、「郷土料理の日」		○	○	○	○			
33	鹿児島県立短期大学	「鹿児島学」講義の開講(隔年開講)		○	○					
34	鹿児島女子短期大学	かごしま郷土料理講座		○	○					
35	鹿児島女子短期大学	鹿児島女子短期大学公開講座	○	○	○	○	○	○	○	○
36	鹿児島大学教育学部	かごしま伝統野菜里帰りプロジェクト	○	○						
37	ミーサインフォーメーションNet	funfantry 鹿児島のsdgs体験		○						
38	一般社団法人folklore forest	新・郷中教育推進事業(鹿児島市青少年課事業)	○	○						
39	細山田コミュニティ協議会、串良公民館細山田分館	みんなで踊ろう細中音頭	○	○	○	○	○	○	○	○

○実施状況について(令和6年度) 42団体回答
 ア 実施している 29団体(複数事業回答団体有り)
 イ 今は実施していないが、来年度以降実施を予定している 2団体
 ウ 実施しておらず、来年度以降も実施する予定はない 11団体

Q8、Q9 連携・協働の状況及び他の主体との連携・協働について回答してください。

No.	団体名	事業名	連携・協働の状況	連携・協働の状況: 行政(首長・部局)	連携・協働の状況: 行政(教育局(社会教育・生涯学習担当課))	連携・協働の状況: 行政(イ以外の教育委員会)	連携・協働の状況: 高等教育機関(大学、短期大学、専門学校等)	連携・協働の状況: 才保育園、幼稚園、小・中・義務教育学校、特別支援学校、高等学校等	連携・協働の状況: 社会教育関係団体	連携・協働の状況: 民間事業者	連携・協働の状況: NPO、NPO 法人等	連携・協働の状況: その他
1	鹿児島県青少年男女共同参画課	かごしま地域塾推進事業	連携・協働していない									
2	徳之島町教育委員会	徳之島町インターンシップ教育事業	連携・協働している				○			○		鹿児島県立徳之島高等学校等
3	指宿市教育委員会生涯学習課	指宿を自慢できる子どもづくり事業	連携・協働している	○	○	○		○	○			商工会議所(商工会)青年部、青年会議所、青少年育成推進員等
4	喜界町教育委員会生涯学習課	シマ唄・シマゆみた発表会	連携・協働している		○	○		○				喜界島言語文化保存会
5	喜界町教育委員会生涯学習課	喜界町・伊佐市交流リーダー育成サマーキャンプ	連携・協働している		○	○						
6	出水市教育委員会生涯学習課	出水ふるさと学寮	連携・協働している		○			○	○	○		
7	南種子町教育委員会	ジュニアリーダークラブ「コスモス」の育成	連携・協働している	○	○	○	○		○			
8	霧島市教育委員会社会教育課	さりしまっ子立志育成事業「さりしまっ子の体験事業(自然体験編)」	連携・協働している		○	○			○	○		
9	枕崎市教育委員会生涯学習課	枕崎ジュニア・リーダークラブにおける諸活動	連携・協働している		○			○	○			
10	枕崎市教育委員会生涯学習課	地域学校協働活動における文化・伝統の継承活動	連携・協働している		○			○	○	○		
11	十島村教育委員会教育総務課	海外ホームステイ事業	連携・協働している	○								
12	さつま町教育委員会社会教育課	さつまふるさと体験塾	連携・協働している		○			○	○	○		
13	南さつま市教育委員会生涯学習課	南さつま市二十歳のつどい	連携・協働している	○	○							
14	南さつま市教育委員会生涯学習課	令和6年度「日新公いるは歌」かるた取り大会	連携・協働している					○		○		
15	与論町教育委員会生涯学習課	パナウル少年の船事業	連携・協働している		○	○		○				
16	鹿児島市中央公民館	青少年、親子、家庭教育、成人、高齢者等を対象とした講座	連携・協働している	○	○	○	○	○	○	○	○	講座等で連携している団体
17	西之表市教育委員会 社会教育課	ふるさとまなび～隊	連携・協働している						○			
18	湧水町教育委員会生涯学習課	ひと声添えたあいさつ運動愛の安全パトロール強調期間	連携・協働している	○	○	○		○	○	○		
19	湧水町教育委員会生涯学習課	ふるさと教育活動	連携・協働している		○							
20	阿久根市教育委員会生涯学習課	あくねキッズスクール～阿久根自然大好きかれあい隊～	連携・協働している		○				○			

No.	団体名	事業名	連携・協働の状況	連携・協働の状況:ア 行政(首長 部局)	連携・協働 の状況:イ 行政(教育 委員会(社 会教育・生 涯学習担 当課))	連携・協働 の状況:ウ 行政(イ以 外の教育 委員会)	連携・協働 の状況:工 高等教育 機関(大 学、短期大 学、専門学 校等)	連携・協働 の状況:才 保育園、幼 稚園、小 中・義務教 育学校、特 別支援学 校、高等学 校等	連携・協働 の状況:カ 社会教育 関係団体	連携・協働 の状況:キ 民間事業 者	連携・協働 の状況:ク N PO、NPO 法人等	連携・協働 の状況:ケ その他
21	阿久根市教育委員会生涯学習課	阿久根ジュニア・リーダークラブ「BAMBI」	連携・協働している		○				○			
22	南九州市社会教育課	青少年国内派遣事業	連携・協働している		○							その他なし
23	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	学び広げる地域リーダー養成研修会	連携・協働している	○	○				○		○	地域まちづくり協議会
24	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	子ども会リーダー研修会	連携・協働している		○						○	ジュニアリーダークラブコア
25	鹿屋市教育委員会生涯学習課	子ども会リーダー育成	連携・協働している		○							
26	鹿屋市教育委員会生涯学習課	鹿屋寺子屋事業	連携・協働している		○				○			
27	薩摩川内市教育委員会社会教育課	市民大学「地域づくりを楽しむ(地域づくりボランティア養成)講座」	連携・協働している	○								
28	錦江町教育課	・トワイライト2024事業	連携・協働している		○							
29	鹿児島市立少年自然の家	次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」	連携・協働している			○				○	○	
30	天城町教育文化の町推進会議	天城町教育文化の町各地区推進協議会	連携・協働している	○	○			○	○			島外飲食業の方と地域活動に参加(一部の地区のみ)
31	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	栄養士科卒業研究 鹿児島産食材の研究 レシピ開発、普及のための研究	連携・協働している							○		養殖場や製造施設の見学など
32	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	鹿児島の郷土料理を学ぶ、「郷土料理の日」	連携・協働していない									
33	鹿児島県立短期大学	「鹿児島学」講義の開講(隔年開講)	連携・協働していない									
34	鹿児島女子短期大学	かごしま郷土料理講座	連携・協働していない									
35	鹿児島女子短期大学	鹿児島女子短期大学公開講座	連携・協働している				○			○	○	
36	鹿児島大学教育学部	かごしま伝統野菜里帰りプロジェクト	連携・協働している					○		○	○	自治体農政課、自治会、園遊会、観光協会、PTA、鹿児島県経済連
37	ミーサインフォーメーションNet	funfantry 鹿児島的sdgs体験	連携・協働している									高校生ボランティアグループするまーず
38	一般社団法人folklore forest	新・郷中教育推進事業(鹿児島市青少年課事業)	連携・協働している									地元住民
39	細山田コミュニティ協議会、串良公民館細山田分館	みんなで踊ろう細中音頭	連携・協働している					○	○	○		

○連携・協働状況について(令和6年度) 39事業・活動より回答
 ア 連携・協働している 35事業・活動(複数事業回答団体有り)
 イ 連携・協働していない 4事業・活動

Q11, 12 貴団体の事業・活動の成果と課題について簡潔に記載してください。

No.	団体名	事業名	成果	課題
1	鹿児島県青少年男女共同参画課	かごしま地域塾推進事業	【令和6年度実績】(1)地域塾への活動支援助成 15団体へ助成(補助対象経費2分の1以内,上限10万円)(2)優れた地域塾の認証 5団体認証(累計81団体認証)(3)かごしま地域塾活動活性化セミナーの開催 令和7年2月23日(日)開催,33人参加	少子化や学校の統廃合等を理由に活動を休止する団体も出てきている。地域課題に応じた地域塾の在り方を検討していく必要がある。また,市町村と連携し,県民運動の実践事業である本事業を広く県民へ周知できるよう工夫するとともに,活動活性化セミナー等を活用し,地域塾間のネットワークの構築を図っていく必要がある。
2	徳之島町教育委員会	徳之島町インターンシップ教育事業	参加者は学びを地域や学校へ発信していく力がついている	参加者に偏りがみられる
3	指宿市教育委員会生涯学習課	指宿を自慢できる子どもづくり事業	令和5・6年度の2か年で延べ100人の子どもに開聞岳登山を経験させることができた。	スポーツ少年団や部活動の試合等と日程が重ならないように配慮したが,思うように参加者が集まらなかった。指導者として市内学校に勤務する教職員にも広く呼びかけたが,数名の参加にとどまった。
4	喜界町教育委員会生涯学習課	シマ唄・シマゆみた発表会	喜界島の唄や方言を後世に繋ぐことができる。	指導者の高齢化
5	喜界町教育委員会生涯学習課	喜界町・伊佐市交流リーダー育成サマーキャンプ	グループで行動することで,他人を思いやることができた。また,離島での文化を知ることができた。	旅費が高額なため,毎年の交流ができない。
6	出水市教育委員会生涯学習課	出水ふるさと学寮	参加した児童生徒及び保護者のアンケートから「手伝いを進んでするようになった。」「自分のことは自分でするようになった。」「自信が持てるようになった。」などの肯定的な意見が聞かれた。満足度は100%だった。	健康管理,安全確保,登下校の送迎,職員の負担軽減
7	南種子町教育委員会	ジュニアリーダークラブ「コスモス」の育成	リーダーとしての資質向上,地域の活性化への貢献。二十歳のつどいの実行委員会の中心メンバーとなる。等	年度ごとに参加率が異なる。男性の参加が少ない。
8	霧島市教育委員会社会教育課	きりしまっ子立志育成事業「きりしまっ子の体験事業(自然体験編)」	異年齢集団生活や自然体験活動を通して,生命や自然を大切にす心,他人を思いやる優しさ,社会性,規範意識,郷土愛を養うことができた。	体験プログラムの開発,講師の選定。予算縮減による財源の確保。
9	枕崎市教育委員会生涯学習課	枕崎ジュニア・リーダークラブにおける諸活動	地域行事に積極的に参加することをとおして,これまでよりも自分たちの住む地域に興味・関心を示すようになった。	部活動や習い事との兼ね合いから,メンバーを確保することが難しい状況がある。
10	枕崎市教育委員会生涯学習課	地域学校協働活動における文化・伝統の継承活動	自分たちの住む郷土に対し,興味・関心を示す児童生徒が増えた。	校区・学校間で取組状況に差があるとところが大きな課題でもある。

No.	団体名	事業名	成果	課題
11	十島村教育委員会教育総務課	海外ホームステイ事業	山海留学生募集のアピール。地元への活力。	費用の高騰
12	さつま町教育委員会社会教育課	さつまふるさと体験塾	毎事業終了時の感想文から、様々なメニューを体験することで参加した子供の記憶に残っていることが確認できた。	・活動によっては指導者の確保が難しくなっている。・活動内容によって参加者にばらつきがある。
13	南さつま市教育委員会生涯学習課	南さつま市二十歳のつどい	人生の節目に成人としての自覚を持ったように感じる。	運営委員の選出方法及び意識の向上
14	南さつま市教育委員会生涯学習課	令和6年度「日新公いろは歌」かるた取り大会	いろは歌をとおして、人としての行いや心の持ち方など学ぶことができる。	特になし
15	与論町教育委員会生涯学習課	パナウル少年の船事業	与論町とゆかりのある地域の史跡・産業・文化の見聞や人々との交流、離島においては経験することのできないことの体験をとおして、自立の精神を養い、島の将来を担う、心身ともに逞しく思いやりや郷土愛のあるリーダーの育成ができています。	夏休み期間の実施に伴い、台風等により実施ができない年度がある。
16	鹿児島市中央公民館	青少年、親子、家庭教育、成人、高齢者等を対象とした講座	地域コミュニティ協議会や団体との連携が深まりつつある。	さらに多くの団体や市民の参加を促進したい。
17	西之表市教育委員会社会教育課	ふるさとまなび～隊	当初の計画のとおり、年間8回実施し、延べ150名(親子体験があったため保護者の人数を含む)の児童等が参加した。参加者からは、楽しかったなどの感想をいただき高評価を得ている。また、今年度より宿泊学習に併せて中1ギャップ解消事業に取り組んだ。	活動ごとに参加者の募集を実施しており、活動内容によっては募集定員30名に対して、多くの応募をいただくこともあるが、その反面10名程度の応募になる活動もあったため、目的に沿った参加者のニーズに合わせた活動を計画することが課題である。また、参加者が増加するように、周知時期等にも配慮しながら取り組む必要がある。
18	湧水町教育委員会生涯学習課	ひと声添えたあいさつ運動愛の安全パトロール強調期間	児童・生徒が安心安全に登校することができた。	地域住民が少ない地区は、見守る負担が大きい。
19	湧水町教育委員会生涯学習課	ふるさと教育活動	活動をとおして、地域とふれあいながらふるさとに誇りを持ち、愛着を持てる子どもの育成を図ることができた。	少子化や多様性に伴って活動に参加する子どもが少なくなっている。
20	阿久根市教育委員会生涯学習課	あくねキッズスクール～阿久根自然大好きふれあい隊～	活動を通して学校・学年を超えた仲間との交流を深め、ふるさとの自然や歴史文化に触れ、地域の魅力を満喫する機会となった。	夏季休業中の実施なので熱中症や水辺での事故等の懸念、対応職員の確保

No.	団体名	事業名	成果	課題
21	阿久根市教育委員会生涯学習課	阿久根ジュニア・リーダークラブ「BAMBI」	学校、学年を越えて出会った仲間たちとふるさとのまちについてや自分たちができることを話し合い活動することができた。	会員の確保
22	南九州市社会教育課	青少年国内派遣事業	雪国の生活や他市の生徒との交流を通して、鹿児島との違いを学び、郷土を理解し、お互いの良さに気づき、視野を広げることができた。	移動に伴う交通運賃の増額、また、宿泊費や食料費等の経費の増額
23	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	学び広げる地域リーダー養成研修会	・実践家による講演や事例発表から、活動へのヒントやリーダーとしての心構え、つながりづくりの方法についてヒントを得ることができる。・多様な団体からの参加者同士のグループディスカッションから、各団体における課題解決に向けたヒントを得ることができる。	・団体のマッチング ・参加者の固定化 ・Web配信、動画配信等のための機材調達
24	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	子ども会リーダー研修会	受講生の自己評価が高く、すべての活動に積極的に取り組んでいる。	前日からの準備等
25	鹿屋市教育委員会生涯学習課	子ども会リーダー育成	今年度よりユース・リーダークラブを発足したことで、小学生から青年までの切れ目ない育成体制が整った。	単位子ども会ごとのイン・リーダー育成の充実、ジュニア・リーダーとユース・リーダーの更なる連携
26	鹿屋市教育委員会生涯学習課	鹿屋寺子屋事業	学習活動を通して、子どもたち同士、お互いを理解し尊重し合う姿勢が育まれ、また、地域の方々との交流を通して、子どもたちは社会とのつながりを意識し、自身の成長を実感できるとともに、地域の方々、中でも高齢者の方々にとっては生きがいを感じられる場ともなっている。	今後、持続可能な仕組みづくりや、新たな活動の展開の工夫
27	薩摩川内市教育委員会社会教育課	市民大学「地域づくりを楽しむ(地域づくりポランティア養成)講座」	受講生同士のゆるやかなネットワークができつつある。受講生が所属している地区コミュニティ協議会や自治会長等に学んだ新しい考え方を相談している。地域が劇的に変化したとは言えないが、前向きな姿勢で、できることから取り組んでいる人が増えている様に思われる。	令和6年度においては、受講生同士の話し合いの場が少なかった。来年度以降は、ワールドカフェ形式の話し合いの場を設け、地域づくりに対する様々な経験や意見の交換が受講生同士でできるような環境をつくる。
28	錦江町教育課	トワイライト2024事業	・異年齢、異文化に触れ、相互扶助、協調性、自主性、思いやりの心を持った青少年リーダーの育成に繋がった。	・児童生徒数の減少や高校生の参加が難しい。
29	鹿児島市立少年自然の家	次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」	参加者及び保護者アンケートでは、満足度が100%であり、「参加後、積極性が増した。」「自分の将来の夢に向けて決意を強くした。」等の感想をいただいている。	・夏季に実施する際の熱中症対策 ・応募者減への対策
30	天城町教育文化の町推進会議	天城町教育文化の町各地区推進協議会	地域との交流や人材育成につながった	島外業者のため、継続で行うにはむずかしい。

No.	団体名	事業名	成果	課題
31	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	栄養士科卒業研究 鹿児島産食材の研究 レシピ開発、普及のための研究	卒業論文として、鹿児島県の茶、黒酢、勘八、柑橘、さつまいも、ジビエについて研究を行い、学内で発表を行った。	研究財源の確保が課題です。授業料外での財源がなく、学生自身でも食材を用意する必要があった。
32	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	鹿児島の郷土料理を学ぶ、「郷土料理の日」	郷土料理を学び、卒業作品展や学園祭などの機会にアレンジをして発表している。学校独自の郷土料理のレシピ本を出版し、卒業生に贈呈している。	原材料費高騰への対応
33	鹿児島県立短期大学	「鹿児島学」講義の開講(隔年開講)	本学学生は多くが県内出身者であることから、学生が郷土理解を深め、様々な視点から地域振興の可能性を考える場の創出に寄与している。	特になし
34	鹿児島女子短期大学	かごしま郷土料理講座	地域の食文化にふれながら自分の料理の幅を広げる貴重な挑戦となり、食文化の継承、食育などに役立てたいという意見が寄せられた	受講者数を増やすための広報活動
35	鹿児島女子短期大学	鹿児島女子短期大学公開講座	様々な分野で多岐にわたるテーマの講座であり、多くの方に関心をもっていただき、次年度の受講を希望する声も得られた	受講者を増やすための広報活動
36	鹿児島大学教育学部	かごしま伝統野菜里帰りプロジェクト	ジーンバンク在来作物データベースへ学校所在地の登録、給食センターへの提供、シンポジウムでの発表、探究コンテスト受賞、種苗や生産物の即売会	活動は継続的な実施が必要であるが、科研費や助成金等の財源の獲得に大変苦慮している。伝統野菜保存者は高齢であるため絶滅を迎える前に一刻も早く地域への土着を図るべきである。
37	ミーサインフォーメーションNet	funfantry 鹿児島のsdgs体験	一昨年実施した小学生の仙巖園チャレンジでは、高校生が小学生に伝える為の事前の学びに、東川隆太郎さんのご協力も得られ、高校生自身の学びに繋がった。小学生も異年齢交流を楽しみながら歴史に触れる事ができた	集客
38	一般社団法人folklore forest	新・郷中教育推進事業(鹿児島市青少年課事業)	開催日は全員が参加し、宿題を終わらせ皆でのレクリエーションや島民による季節の催しを行っている	運営内容のマンネリ化、高学年が習い事等で活動に参加できない、運営者の高齢化
39	細山田コミュニティ協議会、串良公民館細山田分館	みんなで踊ろう細中音頭	子どもから高齢者までが、一緒に踊ることで、地域の一体感が生まれてきた。	地区民全員にこの音頭を周知し、踊れるようになってもらうこと

○実施状況について(令和6年度) 42団体回答
 ア 実施している 29団体(複数事業回答団体有り)
 イ 今は実施していないが、来年度以降実施を予定している 2団体
 ウ 実施しておらず、来年度以降も実施する予定はない 11団体

Q6, 7, 13 貴団体の事業・活動の実施回数と対象となる人数の合計(年間延べ人数の概数), 財源, 今後の計画, 追加調査(聴き取り)への協力の可否について回答してください。

No.	団体名	事業名	Q6:実施回数と対象延べ人数	Q7:財源	Q13:今後の計画	聴き取り調査
1	鹿児島県青少年男女共同参画課	かごしま地域塾推進事業		鹿児島県共生・協働の地域社会づくり基金	当課においては、健全な青少年の育成に向けて、「郷土(ふるさと)に学び・育む青少年運動」の積極的な展開を図ってきているところである。今後とも、「かごしま地域塾推進事業」に継続的に取り組み、地域の活動の核となる指導者の育成、地域塾の自立・発展を進めるなど、地域塾の活動の一層の充実と県内全域への展開を推進し、次代の鹿児島や国を担う、郷土(ふるさと)に根ざした人材を育成する。	—
2	徳之島町教育委員会	徳之島町インターンシップ教育事業		ふるさと思いやり基金・奄美群島成長戦略推進交付金	町の未来を担う子どもたちが大きな夢をもそれを実現するために積極的に挑戦する姿勢を身につけることができるよう計画している	—
3	指宿市教育委員会生涯学習課	指宿を自慢できる子どもづくり事業	1回50人程度	負担金12万円(市子連60,000円, 市P連40,000円, 地女連20,000円)	内容については未定(指宿の魅力を体感できるようなプログラムを考えていきたい)	—
4	喜界町教育委員会生涯学習課	シマ唄・シマゆめ発表会	年1回2月の第2土曜日に実施(土曜授業) 来客数300人	無し	維持・継続	—
5	喜界町教育委員会生涯学習課	喜界町・伊佐市交流リーダー育成サマーキャンプ	伊佐市と喜界町で2年に1回実施 参加者、喜界町18名、伊佐市25名		2年後は喜界の子どもたちが伊佐市で交流を行う。継続して行いたい	—
6	出水市教育委員会生涯学習課	出水ふるさと学寮	1回42人	一般財源, 参加費	令和7年度は2泊3日, 3泊4日の日程で2回実施予定である。	—
7	南種子町教育委員会	ジュニアリーダークラブ「コスモス」の育成		町からの補助金	今後は、より高校生が主体となった活動を行う予定。	—
8	霧島市教育委員会社会教育課	さりしまっ子立志育成事業「さりしまっ子の体験事業(自然体験編)」	1回30人	霧島市一般会計予算, 参加費	本事業の意義を踏まえ、実施に向けて計画策定中。	—
9	枕崎市教育委員会生涯学習課	枕崎ジュニアリーダークラブにおける諸活動	6回20人	市からの助成金(市子ども会育成連絡協議会への助成金)	今後も、自分たちの住む地域のよさを知ることができる活動を多く取り入れていきたい。	—
10	枕崎市教育委員会生涯学習課	地域学校協働活動における文化・伝統の継承活動	5回70人		今後は、市内全校区で活動が積極的に進められるようにしていきたい。	—
11	十島村教育委員会教育総務課	海外ホームステイ事業	1回	自主財源	7年度も実施予定	—
12	さつま町教育委員会社会教育課	さつまふるさと体験塾	年11回 250人	自治体からの補助金, 参加費	・さつま町ならではのメニューの考案 ・子供たちにとって気付きになるようなメニューの考案	—
13	南さつま市教育委員会生涯学習課	南さつま市二十歳のつどい	・運営委員(12名)計6回 ・1月3日開催(当日参加者214名;対象者296名) ・居住の外国人4名参加	教育委員会予算	課題(反省)を生かす。	—
14	南さつま市教育委員会生涯学習課	令和6年度「日新公いろは歌」かるた取り大会	小・中・義務教育学校(12校:約2,100人)で「いろは歌」を学びカルタ取り練習をする。大会当日は約100名弱の参加者がある。		児童数減により、形態を見直しつつある。	—
15	与論町教育委員会生涯学習課	パナウル少年の船事業	年1回20名程度		令和6年度は実施できなかったが、継続事業のため、今後も継続予定の事業である。	—

No.	団体名	事業名	Q6:実施回数と対象延べ人数	Q7:財源	Q13:今後の計画	聴き取り調査
16	鹿児島市中央公民館	青少年、親子、家庭教育、成人、高齢者等を対象とした講座		鹿児島市の配分予算	各コミュニティ協議会や団体及び講座の指導者等と連携しながら、取り組み内容の工夫改善を図っている。	—
17	西之表市教育委員会 社会教育課	ふるさとまなび隊	年間8回開催、参加延べ人数150人	市予算	今後も継続して実施していきたい。(来年度計画については調整中)	—
18	湧水町教育委員会生涯学習課	ひと声添えたあいさつ運動愛の安全パトロール強調期間	3回	財源無し	今後も、地域住民の協力をもらい、町全体で活動を継続していく。	—
19	湧水町教育委員会生涯学習課	ふるさと教育活動	各地区1～2回程度		一部のみにだけ負担となることがないように支援しながら活動を続けていく。	—
20	阿久根市教育委員会生涯学習課	あくねキッズスクール～阿久根自然大好きふれあい隊～	1回29人(令和6年度実績、募集人員25人)	自治体一般財源、参加費	開催時期を検討し、季節に合わせた活動の展開	—
21	阿久根市教育委員会生涯学習課	阿久根ジュニアリーダークラブ「BAMBI」	年間活動回数:15回、会員12人(令和6年度)		各行事等で活動の周知、会員の確保	—
22	南九州市社会教育課	青少年国内派遣事業	2回28人	自治体からの青少年国内派遣事業助成金	7月に受入れ、12月に派遣する。ホームステイを行わず、民間(又は公営)施設に宿泊する。市内の各地で体験学習を通して交流を深める。	—
23	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	学び広げる地域リーダー養成研修会	1回	課予算	次年度以降も継続的に実施し、団体同士のマッチング等を通して、各団体の長所を生かした活動のさらなる充実を支援していく。	—
24	鹿児島市教育委員会生涯学習課青少年係	子ども会リーダー研修会	1回 200人程度	教育委員会内の予算	読み聞かせの団体に講習をしていただく予定である。	—
25	鹿屋市教育委員会生涯学習課	子ども会リーダー育成		イン・リーダー研修会は、市子連より(一部、市教委補助金)、他は財源なし	単位子ども会の活動活性化のために、市教委として「子ども会手引き」の作成活用を行うとともに、育成会に対しての研修会を実施していく。	—
26	鹿屋市教育委員会生涯学習課	鹿屋寺子屋事業	市内30か所で実施(週1回及び月1回程度の体験活動)※各寺子屋は10～20人の児童在籍		町内会ごとに見守りを主とした寺子屋の開設を増やす。	—
27	薩摩川内市教育委員会社会教育課	市民大学「地域づくりを楽しむ(地域づくりボランティア養成)講座」	4回48人	市予算	社会福祉協議会や地区コミュニティ協議会といったまちづくりの実践活動をしている団体・個人と更なる連携を図り、今後は関係者の研修と位置付けた内容も取り入れたい。	—
28	錦江町教育課	・トワイライト2024事業	・3回 84人	自治体補助金、参加費	・富士登山等を計画	—
29	鹿児島市立少年自然の家	次世代を切り拓く青少年育成事業「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」		鹿児島市予算及び参加費	プログラムを見直しながら、より時代に即した内容に改善していく。	—
30	天城町教育文化の町推進会議	天城町教育文化の町各地区推進協議会	年2回(必要に応じ変更あり)	自治体から補助金	各地区での計画となる為 現時点ではおおまかな指定できない。	—

No.	団体名	事業名	Q6:実施回数と対象延べ人数	Q7:財源	Q13:今後の計画	聴き取り調査
31	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	栄養士科卒業研究 鹿児島産食材の研究 レシピ開発、普及のための研究	1回22人	授業料, 学生個人の食材購入費用	今後も卒業研究を通して地場産業を自ら研究し発展に寄与できる人材を育成していきたい。	—
32	学校法人 今村学園 今村学園ライセンスアカデミー	鹿児島の郷土料理を学ぶ、「郷土料理の日」	年1回, 約150人, 20年以上	給食費として学生が納付した財源	継続的に郷土料理の日を行い, 伝統食の承継に尽力する。	—
33	鹿児島県立短期大学	「鹿児島学」講義の開講(隔年開講)	15回119人	学内予算	令和7年度は「かごしまと世界」開講予定(隔年開講)	—
34	鹿児島女子短期大学	かごしま郷土料理講座	3回20名	受講料, 大学経費等	令和7年度も開講予定	—
35	鹿児島女子短期大学	鹿児島女子短期大学公開講座	年13回172名	大学経費等	令和7年度も開講予定	—
36	鹿児島大学教育学部	かごしま伝統野菜里帰りプロジェクト	160回3000人以上	個人の研究に係る活動であるため, 学部としては予算を確保しておらず, 科研費や各種助成金等の外部資金を財源としている。	未だ発見していない在来作物の掘り出しと, 保存保有する在来作物100系統の教育機関への里帰りを順次行う。	—
37	ミーサインフォーメーションNet	funfantry 鹿児島のsdgs体験	2回 のべ20人程度予定	イベントの収益及びNPO法人の事業費より支出	sdgsな黒豚ものがたり(イベント) 仙巖園販売チャレンジ(調整中)	—
38	一般社団法人folklore forest	新・郷中教育推進事業(鹿児島市青少年課事業)	25回175人(25回×7人)	鹿児島市の青少年課の事業	事業が継続される限り運営を継続する	—
39	細山田コミュニティ協議会, 串良公民館細山田分館	みんなで踊ろう細中音頭		コミュニティ協議会	各イベントの中で, 地区民の一体感を高めるための取組として積極的に取り入れていく。	—

○聴き取り調査 42団体回答

ア 協力できる 29団体

イ 協力できない 2団体

ウ 空白回答 11団体

令和7年度鹿児島県社会教育委員名簿

五十音順(敬称略)

委員名	役職等	備考
石岡 秀久	鹿児島市立甲東中学校校長（県連合校長協会中学校長部会代表）	
市 園 豪	鹿児島県PTA連合会会長	
今井 和代	共研幼稚園園長(一般社団法人県私立幼稚園協会理事)	
岩橋 恵子	志学館大学名誉教授	議長
岩下 雅子	鹿児島純心大学 鹿児島県立短期大学 非常勤講師	
上飯屋 美佳	南日本新聞社編集局報道部副部長	
久保 美紗恵	南日本放送報道制作局映像メディア部主任	
黒木 誠	県立鶴丸高等学校校長（県連合校長協会会長）	
酒井 佑輔	鹿児島大学法文教育学域法文学系法文学部法経社会学科准教授	
榑 まゆみ	鹿児島市立武岡台小学校校長（県連合校長協会小学校長部会代表）	
塩井川 公子	鹿児島県子ども会育成連絡協議会副会長	
下江 嘉誉	鹿児島県公民館連絡協議会副会長	
下水流 将太	鹿児島県青年団協議会会長	
瀧川 憲洋	公募委員	
水流 かおる	社会福祉法人落穂会 地域生活支援センターあさひが丘センター長	
手嶋 道男	鹿児島経済同友会教育・人材育成委員会運営委員	
永山 恵子	NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず理事長	副議長
新田 瑠璃子	姫城地区子育てサロン「すももクラブ」代表	
橋口 住真	県議会議員・文教観光委員会委員	
山崎 奈美子	NPO法人鹿児島県地域女性団体連絡協議会副会長	
米藏 雄大	公募委員	

令和6年度鹿児島県社会教育委員名簿

五十音順(敬称略)

委員名	役職等	備考
宇都 恵子	県議会議員・文教観光委員会委員	
小田原 朋美	鹿児島県青年団協議会会長	

委員の任期 令和6年7月18日～令和8年7月17日

